

価格高騰・セキュリティ

AI活用の観点から考える

ファイル共有基盤の選び方

# アンケートにご回答いただいた方へ、 本日の資料をお送りします

アンケート

各設問に回答後、画面下の「回答」をクリックしてください。

アンケートにご協力ください\_デキる管理者はOSとアプリを分ける！？～「苦労あるある」から考える、VDIの最適解～

**必須** 1.会社名

**必須** 2.お名前

**必須** 3.セミナー資料を希望されますか

☐ 希望する

☐ 希望しない



セミナー終了後、本日のセミナーの「アンケート」が表示されます。  
ご回答いただいた方へ、本日の資料をお送りします。

# 価格高騰・セキュリティ AI活用の観点から考える ファイル共有基盤の選び方

パナソニック デジタル株式会社

# 会社紹介

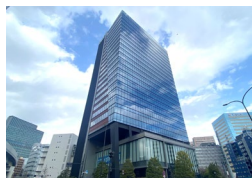
## 会社概要

会 社 名 パナソニック デジタル株式会社  
Panasonic Digital Co., Ltd.

本 社 所 在 地 【大阪本社】  
〒530-0053  
大阪府大阪市北区末広町2番40号  
Panasonic XC OSAKA



【東京本社】  
〒104-0061  
東京都中央区銀座8丁目21番1号  
住友不動産汐留浜離宮ビル



代 表 者 代表取締役 社長執行役員 阿部 裕

設 立 年 月 日 1999年2月22日

社 員 数 約2,200名

資 本 金 1,040百万円

## パナソニック グループでの当社の位置づけ

パナソニック ホールディングス株式会社

パナソニック オペレーショナルエクセレンス株式会社

**パナソニック デジタル株式会社**  
お客様の「くらし」・「しごと」に寄り添った  
DX・ITソリューションを展開

パナソニック コネクト株式会社

パナソニックエレクトリックワークス株式会社

パナソニック HVAC & CC株式会社

パナソニック エナジー株式会社

パナソニック インダストリー株式会社

パナソニック株式会社



# 清水 諒平

Ryohei Shimizu

パナソニック デジタル株式会社  
営業推進統括部 西日本営業推進部 第二営業所

- ◆ 民間企業様向けアカウント営業
- ◆ 大切にしていること : 温故知新
- ◆ 趣味 : ライブ鑑賞、温泉旅行

# ハードウェア価格の高騰と納期長期化

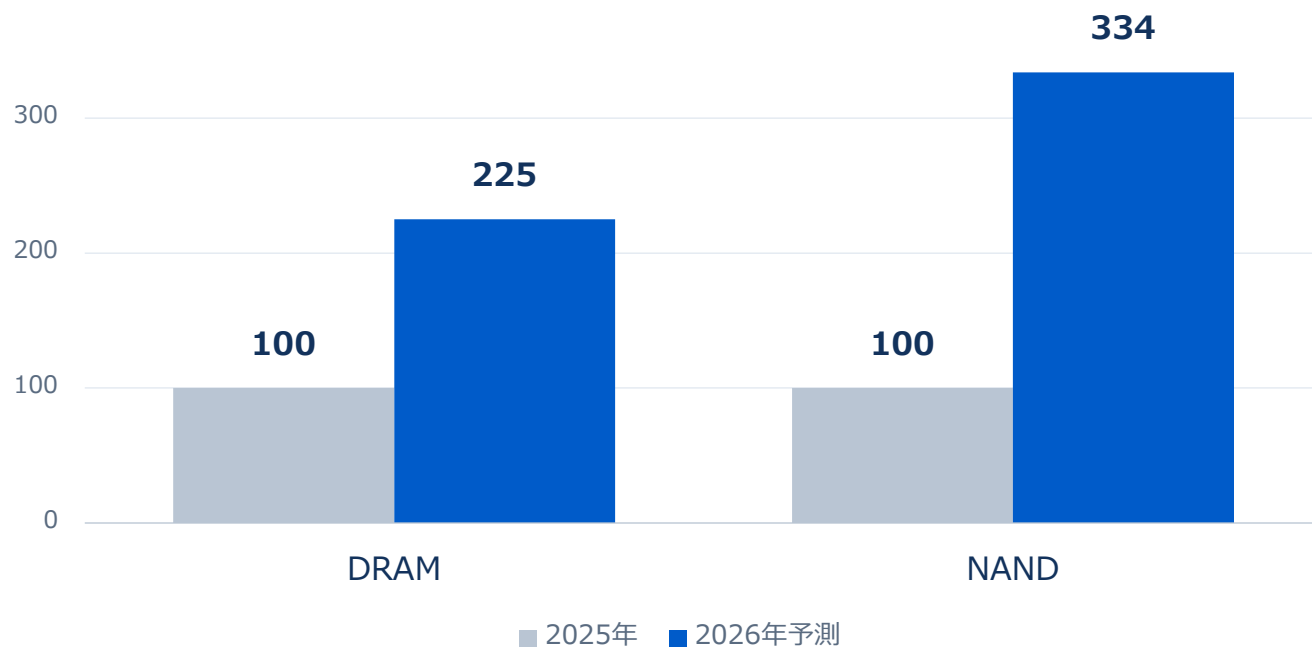
## ～進められないハードウェア更改～

# ハードウェアが「買えない・届かない」時代に

AI需要による半導体逼迫で、メモリ・ストレージ価格が記録的な水準へ。  
JEITA(一般社団法人 電子情報技術産業協会)からの緊急声明として、  
「価格・納期調整へのご理解とご協力をお願い」が発表されています。

## 市場価格の年間予測 | Gartner

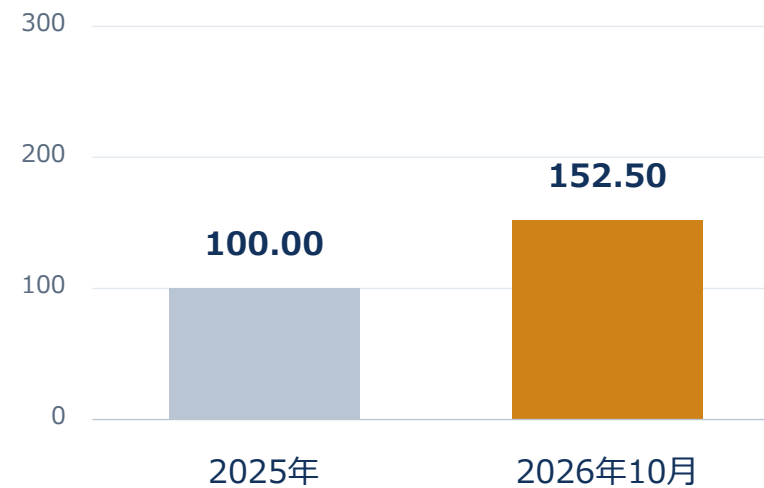
2025年 = 100 (価格指数)



**DRAM +125%    NAND +234%**

## NAS価格の参考指数 | 某製品社内比

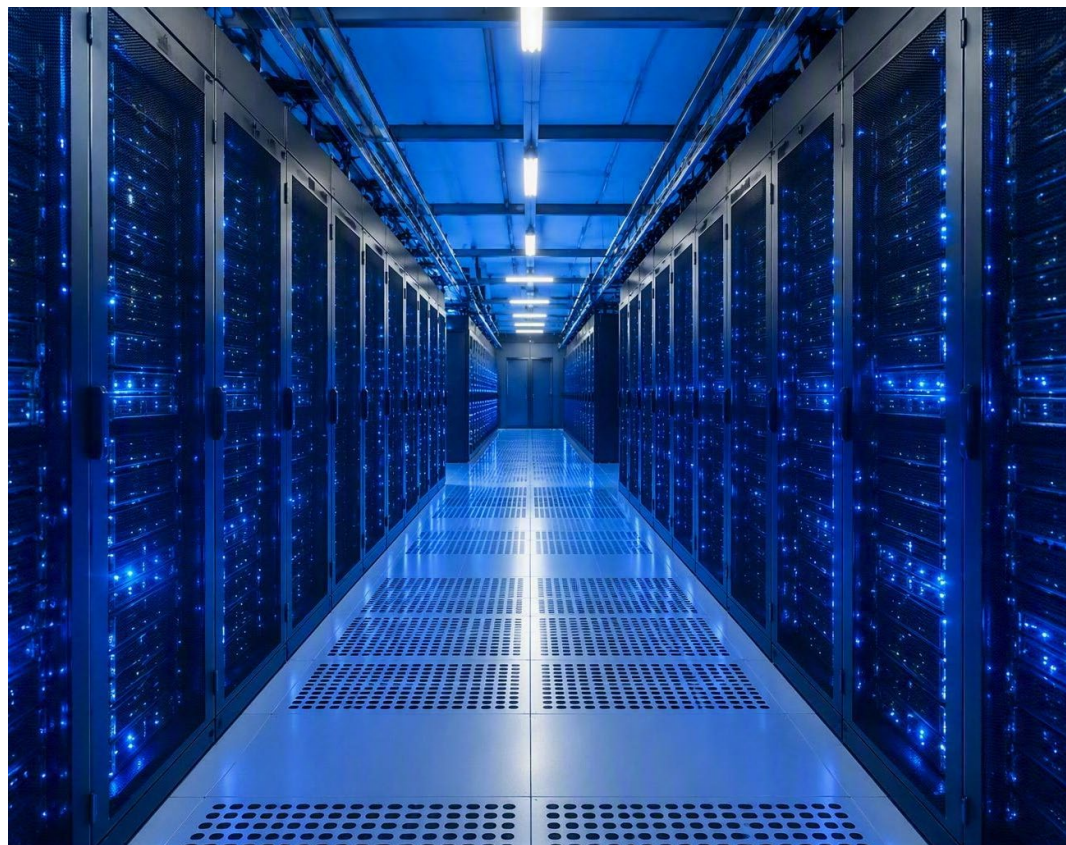
2025年 = 100 (価格指数)



**本体価格 +52.5%**

# そして、納期も戻らない

「もう少し待てば元に戻る」という前提が崩れています



## 解消は 2027年度以降 との見方

AI向け半導体の生産優先構造と地政学リスクによる物流混乱が重なり、供給制約は中長期の構造変化に。JEITAも「2027年度以降も継続する見込み」と明記。

## 「納期未定」のリスク

発注から納品まで異例の長期間を要するケースが増加。

## 予算と時間の二重の不確実性

見積の有効期限が短くなり、稟議が通った頃には価格が変わる。  
従来の調達計画では導入が難しくなっている状況です。

# ファイルサーバの更改が進められない

予算を大幅に超過し、延命保守を余儀なくされていませんか

## STEP 1

### 更改の見積を取る

前回調達時の想定を  
大きく超える金額に

## STEP 2

### 予算超過で決裁できない

増額の稟議も、  
根拠となる価格が動き続ける

## STEP 3

### 延命保守を選択

保守費は上がり、  
EOLのリスクは積み上がる

## STEP 4

### 先送りが続く

容量逼迫・性能劣化・  
障害リスクは解消されない

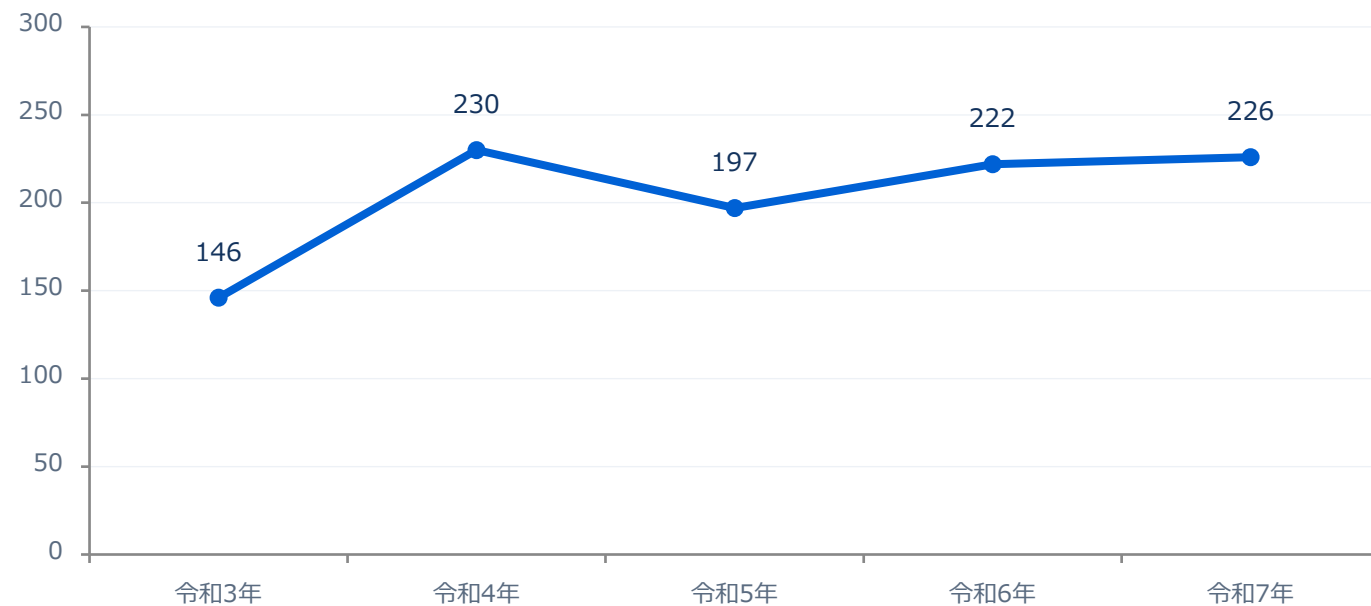


**延命は「コスト削減」ではなく、コストとリスクの繰り延べ**

# 高まるセキュリティ対策要求 ～要求高度化と運用を見据えて～

# 被害は「高水準」のまま続いている

令和7年(2025年)のランサムウェア被害報告は226件



警察庁に報告されたランサムウェア被害件数の推移

## 約6割

被害企業に占める中小企業の割合。規模を問わず標的になっています

## 約4割

業種別で最多の製造業。卸売・小売、サービス、情報通信が続きます

## 約229万件

国内の大手メーカーで漏えいのおそれがある個人情報。受注・出荷も停止

## 約60万件

国内の大手通販企業で追加特定した、漏えいのおそれがある個人情報

事業継続そのものを脅かすリスクへ

# さらに「SCS評価制度」への対応が始まります

経済産業省・内閣官房が構築、IPAが運営するサプライチェーン向け評価制度

| 段階 | 想定レベル                                       | 評価方法                                  | 有効期間                |
|----|---------------------------------------------|---------------------------------------|---------------------|
| ★3 | 一般的なサイバー攻撃への対処<br>(基礎的な組織的対策とシステム防御)        | 専門家確認付き自己評価<br>(情報処理安全確保支援士等の署名)      | 1年                  |
| ★4 | 影響の大きい攻撃への対処。<br>検知・復旧を含む包括的対策と<br>取引先データ保護 | 第三者評価<br>(文書確認+実地審査)+<br>技術検証(脆弱性検査等) | 3年<br>(年次で自己<br>評価) |

## 整備が求められる項目は多岐にわたります

バックアップと復旧 / 認証・アクセス管理 / ログ管理 /  
脱PPAPを含む安全なファイル授受 / データの保管・廃棄 / インシデント検知と対応

## 2026年度末に運用開始予定

2026年3月27日に「制度構築方針」が公表済み。  
委託元が委託先に段階(★)を提示する運用が  
想定されています。

## 取得して終わり、ではない

★3は毎年、★4は3年ごとの更新に加え、  
年次の自己評価。  
認定を「維持する」ための工数と費用が、  
ハード更改とは別に継続して発生します。

# 生成AI活用のために ～必要な情報基盤の整理～

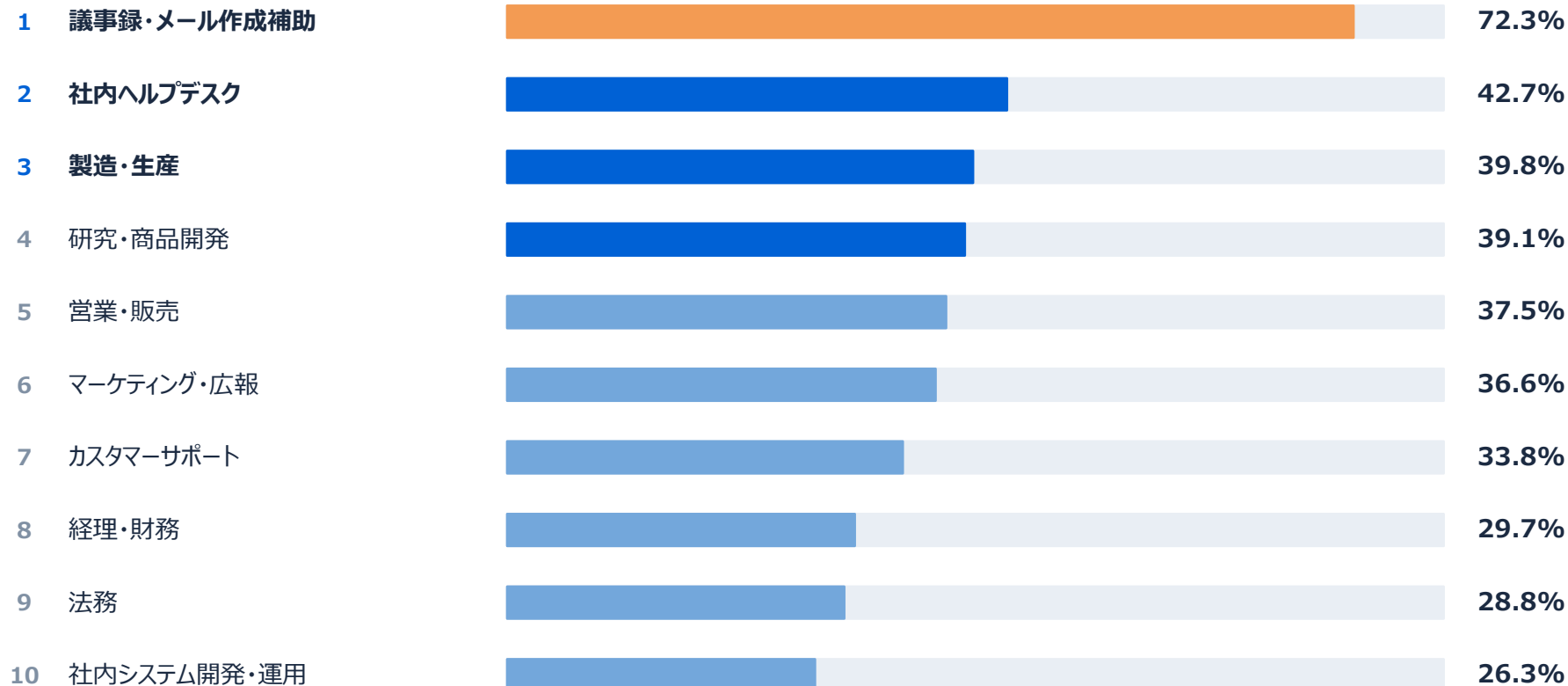
# はじめの生成AIの効果は「文書を読む・探す・作る」業務から

日本企業では、議事録・メール作成補助が突出。次にヘルプデスク、製造・生産、研究・商品開発が続く

1位

72.3%

議事録・メール  
作成補助



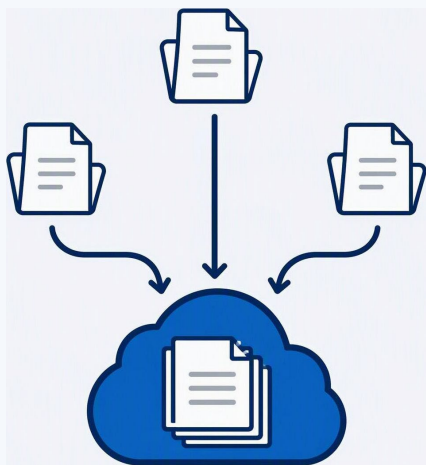
生成AIの活用効果を感じる割合 | 日本企業(複数回答)

# 生成AIを活用する上で整えるべきこと

生成AIのモデルや機能だけではなく、情報を「使える状態」にすることが重要

## 集約

情報が各地に散在していないか？



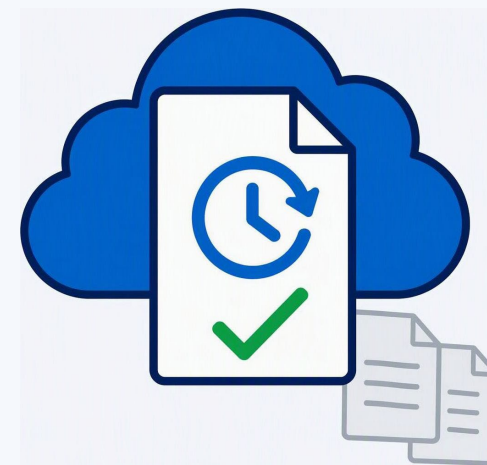
## 権限の適正化

その情報を閲覧できることは許可されているか？



## 情報の鮮度

その情報は生きているか？  
重複していないか？



1

## ハードが高い・届かない 延命によるリスク

買う判断そのものが難しい。  
保守費と老朽化リスクが積み上がる

2

## 求められるセキュリティ対策

被害は高水準で継続。  
SCS評価制度への対応と  
認定維持のコストが上乗せに

3

## 生成AIによる業務進化

社内文書の集約・整理・権限管理が  
できていなければ、AIを導入しても  
安全かつ正確に活用できない

更改が進まない + 単なる置き換えでは済まない



要求事項が増えていくファイルサーバ更改、皆さんはどうしますか？

# Boxで社内コンテンツの在り方を再考する

～攻めと守りを両立させた投資へ～

# 今、なぜクラウドストレージなのか？



- ✕ 機器の更改や拡張対応などの投資予測が困難
- ✕ 幾重にも重なる対策と運用工数の増加
- ✕ 部署や拠点ごとに分散して保存されておりナレッジとして活用が難しい



- サービスとしての利用、容量無制限などで計画精度の向上
- 充実した標準機能、メンテナンス不要で運用負担が軽減
- 社内のファイルを集約することでAI活用のためのデータ基盤を構築できる

## コンテンツクラウド

業務にかかわるコンテンツの  
集約、作成、保管、共有から利活用までの  
ライフサイクルを安全に管理するクラウド基盤



# Boxを再評価すべき3つのポイント

ストレージでなく、コンテンツをベースとした業務基盤へ

## ハード調達・保守運用から解放されるクラウド基盤

- #容量無制限
- #自動最新化
- #社内外との共有

ハードウェア調達から解放され、ユーザーの利用を損ねない容量無制限なストレージを提供します。機器の調達・設置・保守契約・EOL対応等不要に。

## セキュリティ対策も実現

- #ランサムウェア対策
- #迅速な検知と復旧
- #監査ログ

アクセス権限と監査ログでファイルの利用を統制。ランサムウェア被害時は保存済みの版から復旧でき、異常操作の検知も追加できます。

## 生成AI機能が標準搭載

- #文書要約・生成
- #横断検索
- #ナレッジポータル作成

Boxに集約された文書を対象に、要約、質問応答、情報抽出、コンテンツ生成などを実行。既存のアクセス権限を維持したまま、ドキュメントデータを業務に活用できます。

# ファイルサーバの「当たり前」を、Boxはまとめて解消します

容量・運用・共有の3つの観点で見るファイルサーバとBoxの違い

## 容量無制限

容量上限や増設作業が不要。  
データが増え続けても、削除運用や  
更改計画に悩まされません。



## 自動最新化

機能もセキュリティも自動で最新化。  
EOS対応や更改、脆弱性対応に伴う  
パッチ適用は不要です。



## 社内外との共有・共同作業

PPAPを廃止し、Boxが持つ期限・パ  
スワード付き共有リンクへ。業務効率  
化とセキュアな共有を実現します。



※ Box Governance / Box Shield など一部機能は別途オプションまたは上位プランが必要です。

# Boxは、求められるセキュリティ対策に標準機能で応えます

強固なセキュリティ機能群により、Boxに保存すること自体が対策となります。

## ランサムウェア動作環境外

Boxは、ランサムウェアが動作する環境にありません。Box上でのコンテンツ管理をベースとすること自体がセキュリティ対策になります。



## 検知と復旧

ランサムウェアに感染したファイルが侵入した場合でも、検知機能とバージョン管理により迅速に復元可能です。



## 多様な権限と監査ログ

「誰が・いつ・どのファイルに・何をしたか」をすべて自動記録。閲覧やダウンロード、共有リンクの操作まで追跡でき、監査対応や万一の際の調査を迅速に行えます。



※ Box Governance / Box Shield など一部機能は別途オプションまたは上位プランが必要です。

# SCS評価制度と照らし合わせるBoxセキュリティ

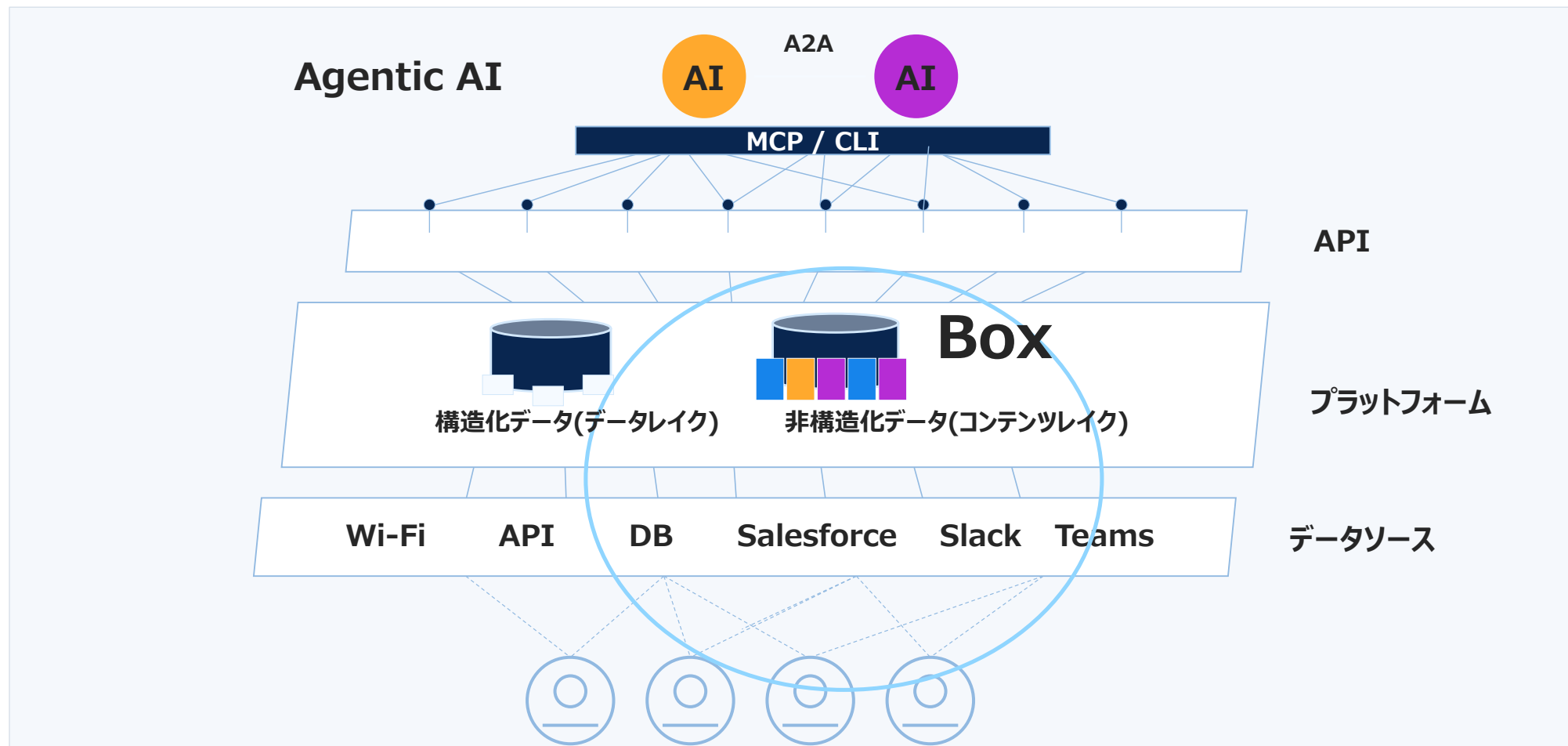
| 対策分類  | 主な要求事項                                                                                  | Boxによる対応                               | NIST CSF<br>対応領域 |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------|------------------|
| ガバナンス | <ul style="list-style-type: none"><li>・セキュリティ担当の明確化</li><li>・対応方針策定、経営層への定期報告</li></ul> | 監査ログによる全操作記録、定期報告の自動化                  | 統治               |
| 取引先管理 | <ul style="list-style-type: none"><li>・機密情報取扱いの明確化</li><li>・共有先把握、外部サービス管理</li></ul>    | ドメイン制限、外部コラボレーション管理                    | 統治               |
| リスク特定 | <ul style="list-style-type: none"><li>・情報資産の把握</li><li>・機密区分に応じた情報の管理</li></ul>         | データ可視化、機密区分管理                          | 識別               |
| 防御    | <ul style="list-style-type: none"><li>・ID・アクセス権限管理</li><li>・暗号化、データの保管ルール</li></ul>     | SSO連携、データ暗号化、分類ラベルでの外部漏洩防止             | 防御               |
| 検知    | <ul style="list-style-type: none"><li>・ネットワーク・データ監視</li><li>・異常挙動の検知・分析</li></ul>       | セキュリティログ管理、脅威検出<br>ランサムウェアアクティビティ検出    | 検出               |
| 対応    | <ul style="list-style-type: none"><li>・インシデント対応手順の作成・整備</li></ul>                       | 対応フロー自動化、インシデント対応状況の進捗管理<br>AIによる脅威の分析 | 対応               |
| 復旧    | <ul style="list-style-type: none"><li>・復旧手順整備</li><li>・復旧ポイント・時間の明確化</li></ul>          | 任意時点への復元、不適切操作による削除防止                  | 復旧               |

## 整えた守りを、証明に

※制度適合は個社の運用設計を含めた総合判断に基づきますので、評価取得をお約束するものではありません。

# 情報資産をAI-Readyな状態に

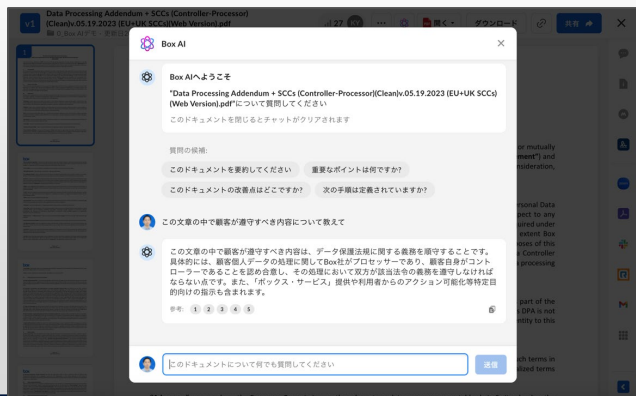
DBのような情報だけでなく、日々のドキュメントも基盤として活用できる状態に



# Box AIで提供される機能群

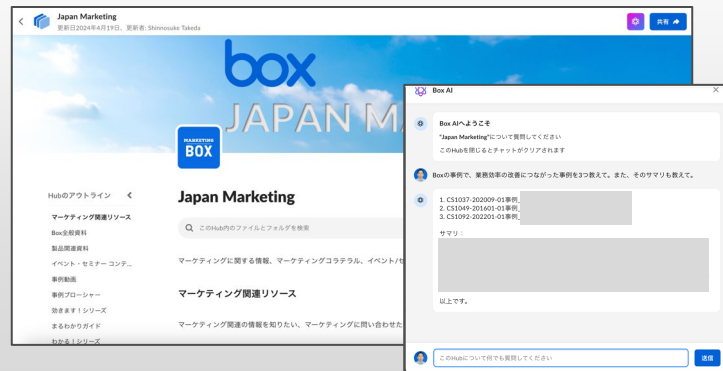
## 法人向け全プラン

### Box AI for Documents コンテンツへのAIによる 要約・分析・翻訳



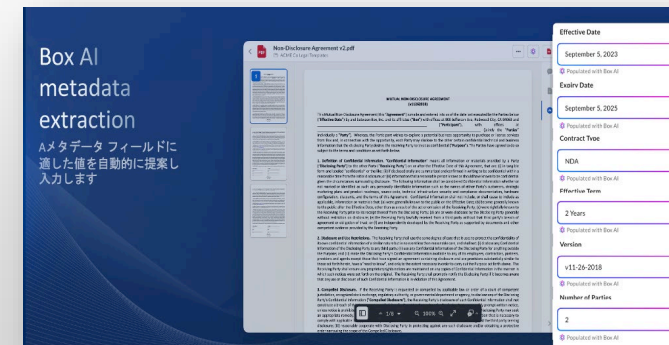
## Enterprise Plus以上

### Box AI for Hubs コンテンツをナレッジポータル化し、 AIで検索



## Enterprise Advance

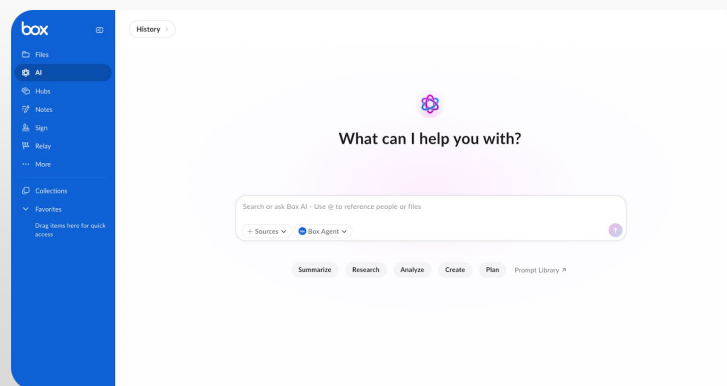
### Box AI メタデータ メタデータの自動抽出による コンテンツの構造化



### Box AI for Notes Box Notes(メモ)上での アイデアの提案・コンテンツの生成



### Box AI Home Boxのコンテンツ全体をAIで検索

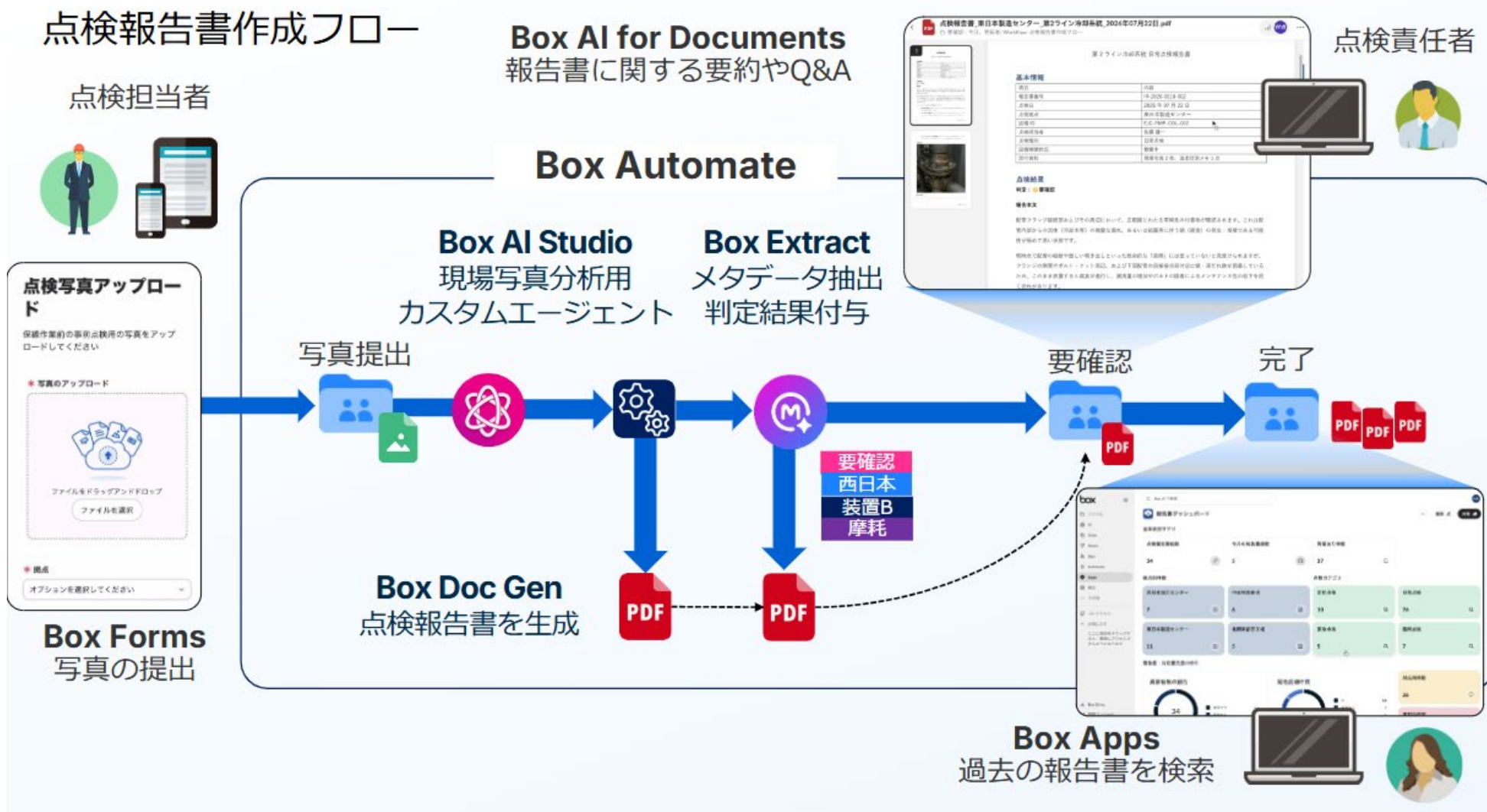


### Box AI Studio AIモデルの選択(ChatGPT,Gemni,Cloudeなど) プロンプトのカスタマイズ



# コンテンツレイクの利用アプローチ

Boxの多様な機能とAIを駆使して、より業務と一体化させることも可能です



※ Box AI Studio / Box Extract など一部機能は別途オプションまたは上位プランが必要です。

## コスト比較

～ファイルサーバ＋周辺設備とBoxの比較～

# 「Boxは高い」ー 本当に、今もそうでしょうか

以前ご検討いただいた時と、ハードウェアの前提が変わっています

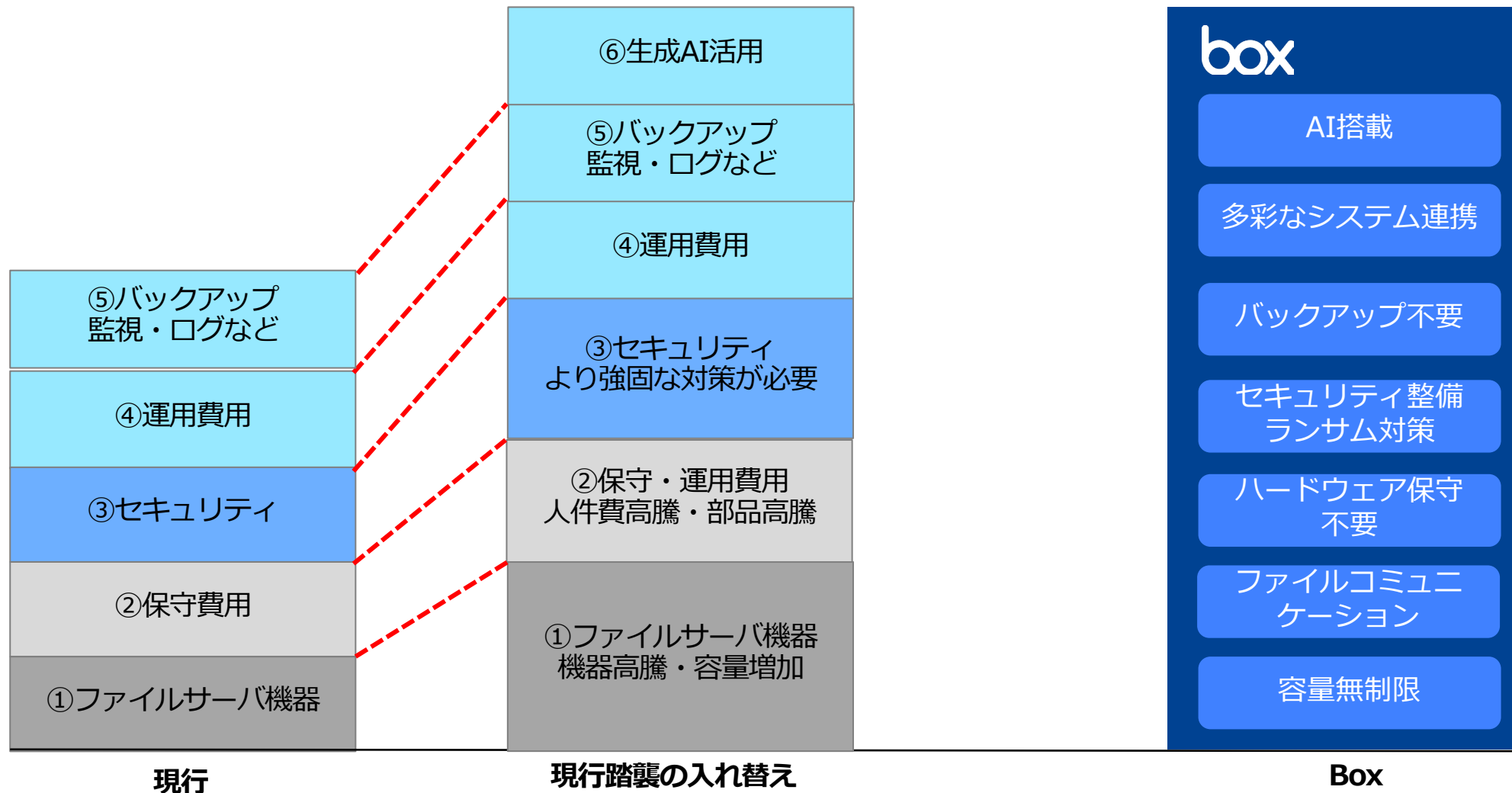
| 比較の観点    | オンプレミス ファイルサーバ(5年)                 | Box(5年)              |
|----------|------------------------------------|----------------------|
| 初期費用     | 機器・OS・ライセンス購入、設計構築。高騰の影響を最も強く受ける部分 | 不要(初期構築の設定支援のみ)      |
| 容量の追加    | 都度、増設機器を購入。調達に時間がかかり、停止作業も発生       | 追加費用なし(容量無制限)        |
| 保守・運用    | 年間保守費、障害対応、パッチ適用、バックアップ運用の工数       | 利用料に包含(ハード保守は不要)     |
| セキュリティ対策 | バックアップ・認証・ログ・脱PPAPを個別製品で追加投資       | 多くを標準機能でカバー(一部オプション) |
| 5年後の更改   | 再び同じ調達を繰り返す。次回の価格・納期は読めない          | 更改作業なし(継続利用)         |

**ハード価格が上がるほど、「ユーザ課金で容量無制限」の相対的な優位は大きくなります。当時の試算は、今の前提で引き直す価値があります。**

※ 上表は一般的な試算モデルに基づく定性比較です。実際の金額はユーザ数・データ量・要件により異なります。御社前提での試算をご提供いたします。

# 費用比較のベース

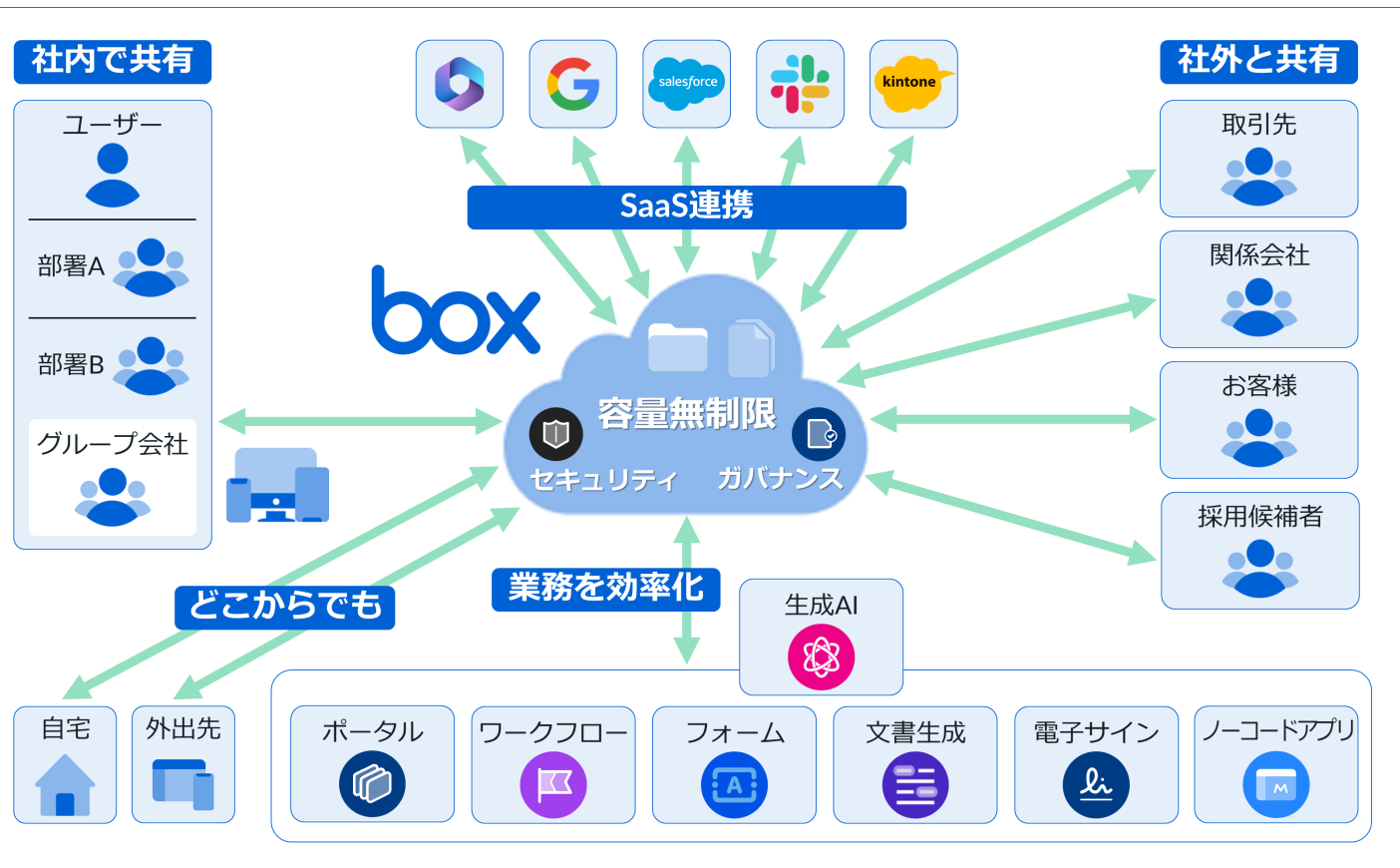
容量増加やセキュリティなど、ファイルサーバの費用は右肩上がりとなります。



# まとめ

# クラウドストレージの最適解

クラウドストレージ(本日ご紹介のBox含め)の選択肢で課題はまとめて解決します。



## ファイルサーバの代替ができる

容量無制限で、増設も更改も不要。  
ハードの価格高騰と納期リスクから切り離せます。

## セキュリティもばっちり

ランサム対策・保管要件・ラベリング・脱PPAP。  
SCS評価制度で問われる観点に標準機能で応えます。

## 業務効率のポテンシャル(AI含む)

社外との共有品質が上がり、集約したデータはAIの活用対象に。  
守りだけでなく攻めの投資になります。

**持ち帰って比較してみませんか？  
ファイルサーバの検討進めませんか？**

**ぜひ、詳細比較のお手伝いをさせてください**

# アンケートのお願い

もし今回のお話を受けて、以下のような疑問がございましたら、アンケートにお答えください。  
パナソニックグループにてBoxを運用している部隊がご相談承ります。

ファイルサーバ更改費用をBoxと比較したい

現在の周辺ツールを含めたTCOを試算したい

Boxへの移行対象と移行方法を相談したい

セキュリティ機能の詳細を確認したい

Box AI、生成AI活用について相談したい

このあと  
表示されます

アンケート

各設問に回答後、画面下の「回答」をクリックしてください。

アンケートにご協力ください

**必須** 1.会社名

**必須** 2.お名前

**必須** 3.セミナー資料を希望されますか

☐ 希望する

☐ 希望しない

**必須** 4.個別相談会

ご視聴ありがとうございました  
アンケートへのご協力を  
お願いいたします



# Panasonic